



福井から

## 野鳥を呼んでフカフカ土の果樹園に

白井 藍

乾燥機に残ったクズ米がもつたいないと思つた若狭町の門田良一かじなさんは、エサが少ない冬に、野鳥のために自家用の果樹園にまいていま

す。キジやスズメ、たくさんの野鳥が集まってきて「鳥たちの婚活パーティみたいだよ」と門田さん。この野鳥たちが畑の土づくりもしてくれるそうです。

果樹園には全体にモミガラが10cmほど敷いてあり、米ヌカも株元を避けて薄くまいてあります。クズ米はその上からパラパラ。集まってきた鳥たちが米を探して歩き回って地面をつつくので、モミガラと米ヌカがよく混ざりあい、土の表面はいつもフカフカに発酵しています。鳥の糞が混じるのもよさそうです。肥料いらずで甘いカキやビワがとれるようになり、家族にも好評です。

「前飼っていたチャボはイタチにやられてしまった。野鳥は心配ないし、見ていてきれいだよ」と鳥を見るのが冬の日課になっています。



兵庫から

## 牛の下痢止めに おかきの缶で簡単竹炭づくり

佐藤孝史

早く治したい牛の下痢。「困ったときは昔の知恵だ」と洲本市の繁殖農家、庄田全宏まさひろさんが教えてくれたのは炭の粉を食べさせること。なかでも竹炭が手軽にやけていいそうです。

冬、枯れた真竹や淡竹はちくのような薄くて割りやすい竹を山で集めます。これを10cmほどの長さに切ってから半割りにして、おかきが入っていた蓋つきの半斗缶に縦に詰めていきます。上には割り箸ほどの太さの竹を一握り分置き、火をつけた紙を入れたら蓋を閉め、半日たったら竹炭の完成です。割れやすいため棒ですりつぶすと缶の中で簡単に粉になるのが、この竹炭のいいところ。1日1回、一つかみをエサに混ぜています。

食べた牛は抹茶色の糞をして、調子がよくなつてきます。2日食べさせても治らなかつた場



合は獣医を呼ぶようにしています。



三重から

## Tシャツプリント機械でオリジナルの米袋

阿部智也

津市で「つじ農園」を営む辻武史さんは、米を直接販売する若手農家です。オリジナルブランド米「たらふく」は、味はもちろん、かわいいキャラクターが印刷された米袋も人気。この

米袋、辻さんが版画で1枚1枚印刷したものです。Tシャツに好きな絵柄をプリントするとき便利な「シルクスクリーン」という版画法を使いました。

友人のイラストレーターに絵を描いてもらい、まずは「Tシャツくん」という機械（1台約3万円）で版に加工。できた版を米袋の上のせ、上からインクを伸ばせば完成です。1枚1分ほどで印刷できて、とても重宝しています。業者に頼むとどうしてもロットが大きくなってしまいます。商品によってデザインを変えたかった辻さんは二の足を踏んでいたのですが、この方法なら、専用の道具を購入する必要はあっても、数やデザインが自由自在。オリジナルの米袋を作りたいという方はぜひ試してみてください！



福岡から

## 夏まで楽しめる真っ赤な絶品イチゴジュース

岩越敬博

久留米市の池尻純子さんから教わった絶品イチゴジュースの作り方を紹介します。

まず梅酒用のガラス瓶にイチゴ1kg、砂糖700gを入れます。そこへクエン酸25gを200mlの水に溶かして加えたら準備は終了。日が当たらない場所に置いておくと、徐々にイチゴから水分が出てくるので瓶を振ってかき混ぜます。1週間ほどで赤くてあまーい香りのするイチゴジュースの完成です。クエン酸のおかげで色鮮やかに仕上がりますが、イチゴを入れたままだと黒くなってしまいますので取り出します。日の当たらない場所なら、常温で夏まで保存できるそうです。

水で割って飲んでもおいしいですが、牛乳で割ると濃厚なイチゴミルクになります。夏はかき氷にかけると、孫たちも大喜び。市販のジュ

ースはおいしくないと飲まなくなってしまうそうです。取り出したイチゴは砂糖と煮つめてジャムにして楽しんでいきます。





岡山から

## ねっとりまるやか ヤマノイモゼリー

向井道彦

岡山市で代々ヤマノイモをつくる広田久枝さん。ヤマノイモを「地域の味に」するべく、スープや揚げ物など様々な料理を考えています。「ヤマノイモはデザートにもなる！」とのこと

で、驚きのヤマノイモゼリーを教わりました。まず皮を剥いて厚さ1cmに切ったヤマノイモ400gを柔らかく煮ます。お湯で溶かした粉ゼラチン25gに砂糖を250g加え、柔らかくしたヤマノイモと一緒にミキサーで混ぜます。イモがペースト状になったら抹茶を加えて再度混ぜ、型に流し込んで一晩冷やしたらおいしいゼリーの出来上がりです。

甘みのあるゼリーに、ねっとりまるやかなヤマノイモが加わり、いろいろな食感です。抹茶なしだとヤマノイモの白い色のゼリーが、食紅を加えるとピンク色のゼリーが作れます。重ねるときれいなヤマノイモの3色ゼリーになり、収穫体験にきた子供たちに振る舞うと「みんなぺろりと食べてしまうの」と笑顔の広田さんです。